

第 6 回 魚沼市小中学校の教育環境の在り方検討委員会 議事録			
会議日程	令和 7 年 6 月 23 日		午後 7 時 00 分 開会
	令和 7 年 6 月 23 日		午後 8 時 10 分 閉会
場 所	本庁舎3階 議会会議室		書記 森山 玲子
出席委員	委員長	雲 尾 周	副委員長 栃 倉 敦
	委員	尾 山 寿 一	委員 谷 脇 祥 子
	委員	佐 藤 志 緒 美	委員 青 山 直 樹
	委員	佐 藤 隼 人	委員 荒 井 安 代 子
	委員	内 田 美 保	委員 佐 藤 玲 子
	委員	大 関 み ど り	委員 梅 田 愛 子
欠席委員	副委員長	上 村 学	委員 櫻 井 裕 介
	委員	土 田 知 美	
事務局	教育長	樋 口 健 一	事務局長 大 塚 宣 男
	学校教育課長	岡 部 忍	管理指導主事 五 十 嵐 哲 也
	管理指導主事	米 山 智	教育センター次長 須 佐 光 行
	庶務係長	森 山 玲 子	

会議事項及び議事の経過

日程第1 開会宣言

(事務局) これより第6回魚沼市小中学校の教育環境の在り方検討委員会を開催させていただきます。よろしくお願いたします。

日程第2 教育長挨拶

(教育長) (あいさつ)

日程第3 委員長挨拶

(委員長) (あいさつ)

日程第4 議事

(1)答申(案)について

(委員長) それでは4の議事に入らせていただきます。(1)答申(案)につきまして事務局から説明をお願いします。

(事務局) 説明させていただきます。
(当日配付資料により説明)
答申(案)について

(委員長) それでは委員の皆様のお考え、ご意見を聞かせていただければと思います。いかがでございましょうか。

(委員) 児童の数が連続的に減っていく中で、5年後15年後、その先にはまた同じような議論がなされると思います。

私の実家が富山県黒部市なのですが、平日に実家に帰り、黒部市議会の本会議の傍聴に行ってきました。そこで同じような学校の話をしてました。黒部市も魚沼市も人口規模はほぼ一緒です。同じように人口が減っています。11校あった小学校が9校になりました。中学校は2020年度に4校あったのが2校になりました。どちらも新築です。5年前10年前、恐らく黒部市で統合を進めたモデルケースの話が本会議のなかでありました。黒部市の現状ですが、統合を進めたうえにさらに人口が減っていつているので、小中一貫校のあり方について、黒部市の教育長が、丁寧にメリットデメリットの話がされていますが、小中一貫校の話がセカンドステージのなかで盛り上がってました。魚沼市も、5年後10年後にさらに児童の数が減っていつて恐らく同じような話になってしまうのだらうと思います。

(委 員) あとには交通の関係なのですが、魚沼市は鉄道の発達はあまりないので、結局スクールバスがメインにならなくてはならないのだと思うのですが、黒部市は、第三セクターの路線もありますし、民鉄の路線もありますし、公共交通がかなり恵まれた環境にあります。ただ運営してる1つの鉄道会社が赤字で経営が成り立たないとか、結局人口減少に伴う話の質問が、教育関係地方公共交通の関係等も含めて、話が膨らんでいました。魚沼市も多分同じような状況だと思います。鉄道が発達はしていないので、スクールバスになるかと思いますが、スクールバスも運転手の確保というのはいりかなりハードルが高いと思います。今この議論が終わったとしても、5年先10年先進んだ議論の中で、魚沼市でも黒部市と似たような話になるのではないかと思います。ありがとうございました。

(委 員 長) ありがとうございました。その他ございますか。

(委 員) 中学校が段階的に15年後2校になり1校になる可能性というお話もありましたが、人口減少だったり、予算の話、地域との繋がりを考えると、ネガティブな話になるのではないかと思います。北中学校や須原小学校はありましたけれど、旧6町村市内で学校の体制が変わるというのは本当に何十年ぶりのことで、皆さんが願うようであれば、ステップなど置かず15年後のゴールを目指して、どんどん盛り上げていく。例えば小中一貫というのもそうですし、それらをメリットにできるような、宿舍があって、寮がある中学校というようなほかにない特色で注目を集められるような、市民の方にも注目してもらえよう、祭りのような雰囲気を持って進めていけたらいいのではないかと思います。統合と言うと地域から学校がなくなるというイメージが強いと思うので、前を向いていけるような答申ができればいいのではないかと思います。

(委 員 長) ありがとうございました。

(事 務 局) 具体的な学校構想等今回の答申ではいたどころとは考えておらず、小学校だったら何校程度、中学校だったら何校程度というのをいただいて、それを受けて計画案をつくることとしています。無理やり統合ということはできないと考えておりますので、方針を決めて計画案を作ってあとは地元と相談をしていくということで考えております。

(委 員) 都市再生特別措置法という国の法律ができて、立地適正化計画を各自治体に示してくださいということで、魚沼市もこの立地適正化計画に基づいて、どこを活かすかというところは地図で示されています。堀之内地区でいうと、堀之内駅から大体周辺1キロぐらい、小出地区で見れば、小出駅から原信、ウオロクあたりまでのエリアに入っているところが立地適正化計画の中に入ります。地域と共に学校も同じように考える必要があると思います。立地適正化計画は人が集まるところを集約をするという法律なので、いずれ集約されることを見越した形で、人も学校も教育も一体で考えていかないとスムーズにいかなくなってしまうという感じですので、配慮して行く必要があると思っております。

(委 員 長) ありがとうございました。いかがでございますでしょうか。

(委 員) 伊米ヶ崎出身の方たちと話す機会があって、子供の人数が減ってこの先どうなるんだろうという話をされている方たちがいました。将来的にはもう学校がなくなるのは覚悟はしているけれど、地元の反対はきっとあると思うということでした。絶対統合となったら小出小と伊米ヶ崎小が多分第一候補となると思うけれど、せめて小学校くらいは地元でというのが年配の方たちの意見だという話をしていました。

(委 員) ただ、児童の人数が減っていくと、子供の学習力が低下すると言って、中学校に上がる時点でもう他のところを検討しているという意見も聞いたので、前向きに学力向上、部活力の向上を含めて、これから先何年後にやりますとゴールを決めた方が地元の方たちも納得しやすいのではないかと思います。先延ばしにしていけばしていくほど、いつになるんだろうという不安もあります。地域移行するクラブチームでも実力差がすごくあるので、格差をなくすためにも15年後20年後ある程度期間を区切って動くのがいいのではないかと思います。保護者の方たちと話して感じたところです。

- (委 員 長) この骨子だけではなく、スケジュール案を示されたほうがいいんじゃないかということですね。
- (委 員) その方が年配の方たちもある程度納得しやすいのではないかと伊米ヶ崎の方たちは話していました。
- (事 務 局) 骨子案で、小学校では5年後、中学校では段階的に15年後というように書かせていただいたのですが、もう何年後にどこどこを統合、小学校だったらA小学校とB小学校を何年後、C小学校とD小学校を何年後というのを答申に盛り込んだほうがいいのかということでしょうか。
- (委 員) そのほうが納得しやすいのではないかと思います。どことどこという案があった方が、地元の方たちはきっと分かりやすいのではないのかと思います。
- (教 育 長) 今回のこの検討委員会は教育環境のあり方ということで、望ましい教育環境と実現に向けた具体的な方策というところで諮問という形をとらせていただきました。それに伴っての答申をいただきたいというのが当初の趣旨です。
お話が出たように、伊米ヶ崎小と小出小、宇賀地小と堀之内小等、それぞれの立場でどういう組み合わせにするという意見は非常に分かれるところだと思います。具体的なことを全部集約してまとめていくのは厳しいだろうと思っております。
ですので、今回答申の骨子案として示させていただいたように、小学校は市内4校程度の規模で、1学年単学級または2学級以上ぐらいの規模が望ましい、それから中学校はやはりどうしても各教科、正規教員の配当が欲しいので、3学級以上、しかも集団の中で、もまれながら社会性を身につけていくということを大事にしたいという趣旨で、この規模や配置についてくらの答申にしておいてまとめておこうという案です。
もちろんこの答申を受けて、教育委員会でそのあと具体的に、伊米ヶ崎小と小出小を統合したいという案は作る必要があると思っております。作ったうえで発表し、伊米ヶ崎小と小出小でまた具体的に検討をいただくという手法をとりたいと思っております。
ですので、そこまで示せないわけではなく答申案としてこの委員会でいただくのは、骨子案としてここにあるような規模等、または大事にしたいこと等の趣旨にとどめておき、それをいただいた教育委員会としては、教育委員の皆さんとの検討を重ねながら、具体案を示したいと思っております。ですので今回の委員会での答申は、小学校は5年後、中学校は段階的に15年後という表現を使わせていただいて、答申をいただければというのが事務局案です。
- (委 員) 今のお話を踏まえて、事務局から説明のあった答申案の内容で私が感じたことなのですが、集団教育は子供たちにとって本当に大事だと思っております。魚沼市は子供たちが少なくなっていくということ、ここが1番の課題と思いながら、説明があった教員数の確保や子供の学習環境を踏まえて、適正規模で示された部分について私はとても納得しました。
今までの地元の状況が分かっているからこそ、1校と提示されると抵抗感が生まれる部分があると思うのです。子供たちの教育環境という視点では、これまで検討し提示された内容はとても納得すると思いました。中学校では段階的に15年後1校と示されていますが、その前段階、4校から1校になるまでの途中経過をどのように考えているのかお聞きしたいです。
- (事 務 局) 中学校を段階的と申し上げたのは、将来的には1校が500人ぐらいなので、1校で十分なのではと思うのですが、10年後だとまだ1校にまとめるほどの人数ではありません。ただ、北中はもう人数が減ってしまっていて、北中まで15年後と言ってしまうと、資料でもお示しましたが、10年後でもかなりの減少で、1学年で1桁の生徒数になってしまいます。そうすると教員の確保も当然難しいですし、子供たちの切磋琢磨も難しくなってくるのではないかと思いますので、まずは北中を何とかしなければいけないかと思い、段階的と示させていただいております。
- (委 員) 15年後に1校というイメージではなく、統合が必要というところを段階的に判断するということですね。よく分かりました。

- (委員長) スケジュールを組んでいく中で、複式学級が生じるころや、校舎の問題等、そういったことを考えて、合意が得やすいところから早く統合していくことがあるだろうということです。
- 中学校も15年後に1校(魚沼中学校仮称)という形になると思うのですが、将来的にもととの地名が残ることは、かなり難しいだろうと思います。
- 例えば小出中学校を統合したからといってその瞬間に名前を変えるとなると、いろいろな部分でものすごくお金がかかります。校歌を作らなければならない等、コスト的にも検討の労力的にも大変ですので、統合の度に名前を変えるのではなく、最終的な目標地点で魚沼中になるので、当面はそのままの名前でいくのがいいと思います。表面上は吸収合併に見えるけれども中身は対等合併のような形で進めていくのがいいと思います。
- そういった意味でいうと、複式学級の小中学校は早めに統合するけれど、その時に名前を変えるというわけにもなかなかいかないだろうと思いますので、そういったことも説明して進めていくべきではないでしょうか。
- (委員) 今まで学級数ですとか統合のことに話をしてきたと思うのですが、スクールバスの運行についてお聞きします。
- 子供が減るのもそうなのですが、働く大人も減っていくと思うのです。現在でもタクシー会社でも人手不足が生じている中、運転手確保ということに対してどのように考えていらっしゃるのか、分かる範囲でお聞かせ願いたいと思います。
- (事務局) 公共交通を含めたバスやタクシーの運転手の確保は、魚沼市だけでなく課題になってます。少し極端な話をしますと、バスもあり予算でお金も出せるのに運転員がおらず、路線バスは便数も減っています。乗る方も減っていますが、運転する体制を整えられなく路線バスの便数が減り廃線になるということが現実起きています。ただその中でスクールバスについては、朝と夕方と時間が決まっていますので、今現在は確保できております。部活動の地域移行により、地域クラブは時間帯がまちまちだったり夜の時間帯で、運転手の確保ができていません。働き方改革もあり尚更なのですが難しいと考えています。
- 通学に関しては、今現在も市内のタクシー会社、それから路線バスは南越後観光でお願いしていますが、今後、統合が進んでくると従って、便数や路線も増やさなければなりません。今のうちから市内だけではなく、場合によっては市外の運行できる会社を探す必要も出てくる可能性もあると考えています。
- (委員長) その他いかがでしょうか。
- (委員) 骨子に関してです。早い頃に1度発言をしていますが、私は統合するにあたって校名に旧地名を使うのはやめた方がいいという話しをしたと思いますが、こういったことも骨子に盛り込めないでしょうか。
- (教育長) 統合した場合の学校の名前でしょうか。先ほど申し上げたように、具体的には学校を統合するというプランニングをして、教育委員会として提示していきますが、その過程の中で、対等の合併で新しく作ることにしたときには、校名をどのようにするかということは、その地域と一緒に考えていかなければならないと思いますので、一律に校名に旧地名を使えない、扱えないということまでは、この答申の中で記載をすることは考えていないという状況です。
- (委員) ちょうど今年、広神東小が50周年真っ只中なのですが、漠然と60周年はないのではないかと感じています。
- 小出小と伊米ヶ崎小、堀之内小と宇賀地小の統合は皆さん頭の中に描いていて、須原小と広神西小も恐らくワンセットで考えているかと思います。須原小と広神西小、広神東小、湯之谷小の関係性は先々展開次第では、広神東小の学区が両断されるのではと想像したなかで、全部リセットしてスタートできたらいいという思いがあります。骨子の中に新たな校名含めて、全部、校章も変わる校歌も変わるという設定をしていただきたいという思いがあります。
- 中学校が段階的に2校になって最終的に1校に統合となると考えたとき、途中でなくなる前提の学校ができるというイメージだったのですが、話を聞いてきた中で、児童数減少を踏まえた段階的な統合は仕方ないと思いました。

- (委 員) ゴールを決めると言ったのも、自分がちょうど50周年の中において、あと何年で統合だと示されれば、地元の学校をできるだけ慈しんで、そしてリセットして新たにみんな一気にスタートする。予算の話にもなるのかと思うのですが、市の一大きな動きになると、プラス思考で皆さん統合に向かっていけるのではないかと思います。
- (事 務 局) 今のご意見は、校名に旧町名を引きずらないということだと思いますので、合併した同士が同じ思いを抱けるような名前がいいのかと思いますので、段階的に統合していくところでは難しいかもしれませんが、中学校では、統合した先の全員の合意を得られるような名前を考えるということを、この付帯意見のところに委員会の意見として入れられると思います。
- (委 員) 私の地元富山の話ですが、単なる統合だと学校の名前は変えていなかったです。4校あった中学校が2校になったときは全部新築で、校名は市民向けの公募で決まりました。その名前は地元の名前が入っていませんでした。1校は「明るい峰」で明峰中学校という名前です。誰が聞いても、黒部市の学校だとは思いません。公募等いろいろ方法があるかと思います。希望の見えるかたちで学校の名前を募集する等、住民から理解や興味を持ってもらえるということは十分あり得ると思います。
- (事 務 局) 骨子案を示した中で、校名についてはご意見をいただきましたが、基本的には、小学校では複式学級はできない規模で統合を進め、中学校では段階的に市内1校ということで、皆さんのご了解を得られたと考えてよろしいのか、また、骨子の意見として、抜けているというのがあればお聞かせ願います。
- (委 員) 黒部市では今になって小中一貫校が話題になっています。4校を1校という話になった今、また変化があつて、小中一貫校という話にならないのかなど、今感じています。いずれは人が減っていくので小中一貫校を検討したということも、入れておいてもいいのかと思います。
- (教 育 長) ここまでの話し合いの経過の中で小中一貫校の話が出てきていますが、この答申案としましては骨子の中にありますように、小学校は小学校、中学校は中学校で統合、そして中学校は15年後ということを見据えての部分ができましたので、答申案の骨子の中には、小中一貫まで触れなくていいのではないかと思います。
さらに進んだときには、またそのときの段階が必要なのだろーと思います。ここまで考えてきた小学校の教育環境や、中学校の各教科の正規教員がみんな配当されるような望ましい規模というのを考えてきたときに、小中一貫は望ましい学校のあり方ではないのだろーと受けとめています。
何とか学校を存続させたいというときの手法として小中一貫はありますが、令和6年の段階で検討してきた中で、小学校は小学校として4校、中学校は1校とする方向性が出ていますので、そこに小中一貫を入れてるということは混乱を生じるので、今回の骨子でまとめる中には、含まれなくてもいいと捉えております。
- (委 員) 小学校は5年後を目途に4校、中学校は15年後を目途に1校に統合。「5年」と「15年」というワードを大切に骨子をまとめるという理解でよろしいでしょうか。
- (事 務 局) そのようにお考えいただければありがたいです。
- (委 員) 5年というのは意外と先が長いようでかなり短いと思います。この委員会の中でも新築したら幾らだとか、リニューアルしたら幾らという話もありながら、結構お金のかかる大事な部分の要素の話なんで、その辺も当然並行して動こうとすれば、新築というのはいずれ出てくるかと思います。
リニューアルした湯之谷小と宇賀地小はまだまだ使えますが、他の学校はもう50年ぐらいですから、そういったことを考えていくと、5年後のまたその5年から先はどうなるのかというところは、委員会としては全く話が出なかったのかというところは気になるころではあります。新築の関係と5年後の答申の話とは齟齬があるのではないかと私は思っています。
- (事 務 局) 5年後という数字は出ていますが、小学校については複式学級ができないということが一番大事なのではないかとこの委員会で皆さんのご意見を聞いてきて思ったところです。

(事務局) 5年後を目途に4校程度に統合した場合でも、子供の数のV字回復を見込めないとなると、やはりまた複式学級の危機が出てくるのではないかと思います。

ただ、子供が生まれてから小学校に入学するまでの年数が5、6年ありますので、その先の想像がつきます。地域に生まれた子供の人数によって、その地域の小学校はもう何年か後に複式学級になってしまうという予測が立てられれば、生まれた子供が0歳のときから地域に入り、その学校の今後の話ができると思っています。

ですので、5年後を目途に統合であります。その先は毎年子供の数を見て検討をしていく必要はあると思っています。

校舎については新築できれば一番いいのですが、財政部局との相談をしながらになりますので、必ずしも新築ができると考えておりません。

(委員) 耐用年数が鉄筋で80年で、今50年くらい経過している学校が幾つもあるというなかで、新築をすることも今から先を見据えて考えていかななくてはならないと思います。

今年か来年か市民説明をして理解を得て、新築するには8年から10年ぐらいは最低でもかかりますので、5年先で4校という話の先には、新築は10年先でないと、新築は早くても10年先という目線も必要なので、5年先また検討会ということにならないように配慮すべきだと思います。

(事務局) 答申案の最後の具体的な方策として、皆さんからの意見は20年後30年後を見据えたある程度長いスパンでの再編計画を示しなさいということで、やはり5年で終わる計画ではなく、ある程度長いスパンで見ることが必要と考えております。答申案の付帯意見になるのではと思いますが、そちらには盛り込ませていただきたいと考えております。

(委員長) いかがでございましょうか。答申骨子案についてご賛同いただけたということよろしいでしょうか。

それでは、本日の議事はここまでとさせていただきます。委員の皆様の見解を事務局でまとめて答申案を作成していただければと思います。

その他でございます。今後について事務局からお願いいたします。

(事務局) 今ほどご確認いただきました答申の骨子をもとに、次回第7回になります。本日承認いただきましたこの骨子案をもとに今度は文書を成文化しましてお示しをさせていただきます。委員の皆さんからご確認をいただいて、まとめたいと思っています。最終的には10月の第8回で、答申として提出をいただきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

(委員長) ご質問等ございますでしょうか。その他として何か委員の皆様からありましたらお伺いいたします。よろしいでしょうか。

日程第6 閉会宣言

(委員長) 以上で第6回魚沼市小中学校の教育環境の在り方検討委員を閉会いたします。ありがとうございました。